日本郵船株式会社

2015 年 5 月

# 2015 年 3 月期通期決算説明会　質疑応答の要旨

【定期船事業】

Q1 コンテナ船の運賃に関し、今年度の見通しを教えてください。

A1 北米往航の運賃指数は、13 年度実績 96、14 年度実績 91 に対し、15 年度予想 92 と予想しております。14 年度実績より 1 ポイント上昇することになりますが、これは取扱貨物のポートフォリオが変わったためであり、運賃指数としては上昇しますが、実数としてはあまり変わらない見込みです。また、北米往航の運賃相場はあまり上下しないと見ております。一方、欧州往航の運賃指数は、13 年度実績 72、14 年度実績 70 に対し、15 年度予想 68 と予想しております。これは 15 年度 1Q が 66 と低水準で始まり、労働節後の時期をピークとして少しずつ上昇し、その後また下がる予想で、平均すると 68 程度になるかと見込んでいます。直近の SPOT 運賃はリーマンショック以来の安値だと言われており、スタートとしては非常に厳しい状況ですが、当社の場合、市況連動する貨物は全体の半分以下ですので実質的な影響の度合も緩和されます。

Q2 定期船事業の大幅増益に関し、増益要因を教えてください。

A2 14 年度の経常利益実績 98 億円に対し、15 年度経常利益予想は 275 億円と 177 億円良化を見込んでおります。運賃の下落により幾分か悪化も予想されますが、円安・燃料費安・コスト削減効果により収支は良化すると見込んでおります。

Q3 コスト削減による収支への貢献度を教えてください。また北米の内陸コストが上昇していると聞きましたが、それをどのようにカバーするのか教えてください。

A3 14 年度実績では、定期船部門で前年度比 105 億の良化となり、その内 195 億円がコスト削減効果でした。トラック等内陸コストに関しては、昨年までその水準は横ばいでしたが、今年にかけて上昇すると見込んでおります。ただし、往復航のラウンドでみたコンテナのポジショニングを分析し無駄な配置をしないようコントロールしコンテナを効率的に回すことで、コスト増を上回る規模のコスト削減を見込んでおります。

【航空運送事業】

Q1 今後も黒字化を維持するということですが、昨年度あった北米港湾混雑による緊急輸送需要がなくなる中で黒字化をどのように達成しようと考えているか教えてください。

A1 構造改革によるコスト削減効果や燃費効率のいい運航機材比率が高まったことなどにより収支は良化すると見込んでおり、今年度も十分に黒字化達成できると考えております。まずは3年連続で黒字を出すことを目標に取り組んでいきます。

【その他】

Q1 中期経営計画では 16 年度目標として経常利益 1200 億を達成すると仰ってますが、それに向けた進捗を教えてください。

A1 14 年度も進めてきた構造改革を 15 年度も引き続き行い、中計目標を達成するよう努めています。一般貨物輸送事業の中で、昨年まで赤字であった航空貨物輸送事業の黒字化が定着していくと考えており、またコンテナ船事業も足元は厳しい競争環境ではありますが、今後ある程度利益が積み増しされていく事業にな

ってくると考えております。さらにドライバルク市況が今後も今の低水準が続くとは考え難く回復していくだろうと予想され、目標達成は十分可能であると考えております。